

さんさん、きらきら 第20号

光り、輝く、チーム南陽小 ～考えよう、語り合おう～

令和4年11月25日
長崎市立南陽小学校
学校だより
校長 寺田 成広

4年生が八郎岳登山にチャレンジ

11月18日(金)、4年生が地元の山である「八郎岳」に登りました。

八郎岳は、標高が589mあり長崎市で一番高い山です。険しい山道を登って頂上にたどり着くことによる「困難を乗り越える強い心」と、地元広がる豊かな自然にふれて頂上からの絶景を体験することによる「ふるさとを愛する心」を育てるための活動です。本校では、歴代の4年生が取り組んできました。

チャレンジの結果、地域・保護者の方々からサポートを受けながら、参加した児童は全員見事に登頂できました!!

帰校した子どもたちに感想を尋ねたところ、「きつかった。でも、眺めが最高だった。」「初めてだったけど頂上まで行けてよかった。」等々の反応があり、八郎岳の素晴らしさや達成感を味わえたことが分かりました。

他の画像はこちら⇒[4年生 八郎岳登山 | 長崎市立南陽小学校 \(nagasaki-city.ed.jp\)](https://nagasaki-city.ed.jp)



登山を控えた14日(月)には、保護者の三浦さんの紹介で、八郎岳の保全をしながらその魅力を伝える活動をされている汐碓さんを講師としてお迎えし、事前学習を行いました。登山の行程や準備品、活動中に気をつけること等を詳しく教えていただきました。頂上からは、県内では雲仙、平戸、県外では天草や鹿児島県の甑島まで見渡せることも話していただき、子どもたちの活動意欲がいっそう高まりました。

また、頂上に標柱を立てたり、付近の樹木を伐採して眺望を確保したり等の地元のために熱心に活動されている人の存在を知ったことも、子どもたちにとって大きな学びになったと思います。次の世代の郷土の担い手になる子が出てくることにつながるでしょう。

「コーチング」をご存じですか その2

前回に続き、コーチングについてお伝えします。

まず、コーチングに臨むスタンスです。講話では、「人は皆無限の可能性を持っている」、「必要とする答えは相手の中にある」、「答えに気づくにはパートナーが必要である」という意識で進めていくことを語られました。パートナーとは、「分かろうとしてくれる人」を指します。

コーチングのプロセスは以下ようになります。

- ①観察する(物語として語るための材料を探す)
- ②声かけて共通点を探す(心の距離をコーティングする)コーティングとは、後のプロセスがスムーズに進むように関係性を整えることです。
- ③気持ちを聴く(聞くにとどまらず、聴くを心がける)
- ④「ほめる」より「認める」(「ほめる」は評価となる。「認める」は存在によってもたらされた感想を伝えること。)
- ⑤問いかけて、問題を解決する能力を高めるようにする

目指す姿・答えを指導するティーチングではなく、目指す姿・答えを導くための支援であることをふまえてコーチングすることが大切になるようです。

長崎県教育センター公開講座佐藤敬子氏の講演資料より引用